

福井県におけるクルマに頼り過ぎない社会づくりの取組みと今後の展開



清水 佑哉（福井県未来創造部新幹線・交通まちづくり局交通まちづくり課）
 竹沢 進（福井県未来創造部新幹線・交通まちづくり局交通まちづくり課）
 伊與 悠登（福井県未来創造部新幹線・交通まちづくり局交通まちづくり課）
 川本 義海（福井大学学術研究院工学系部門）

1. はじめに

- 全国有数のクルマ社会の福井県において、平成23年度から行政、企業、県民が協働し「クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議」を立ち上げ、13年間活動を行ってきた。
- 令和6年春には北陸新幹線金沢・敦賀間延伸に伴い、これまでに増して公共交通の二次交通としての役割が大きくなっている。
- 交通機関の利用促進に向けた活動実績を振り返るとともに、今後の持続的な取組みについて報告する。

2. 取組みの概要

- 県内各地のイベントでのPR活動や、ポスター・リーフレットの製作等により公共交通機関の利用を促進
- モビリティ・マネジメントの意識付けを図るため、个性的で県民の目に留まりやすいポスターの制作や遊びながら公共交通を学べるオリジナルカードゲームの体験会等を実施

2-①

少女漫画風ポスター『電車通勤の楽園へ』

- 鉄道の利用促進として、『電車通勤の楽園へ』をキャッチコピーに、コミカルな絵柄で電車通勤のメリットをアピール
 - 車通勤から電車通勤に切り替えることで生まれるお金や時間を乗車区間ごとに算出
- 个性的で印象に残りやすいキャッチコピーや絵柄を使用することで、読み手の記憶に残るPRを実施

クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議とは？

設立時期 2011年10月（第1回県民フォーラム開催）
構成員 37団体（福井県、17市町、企業、団体、学識経験者）
事務局 福井県未来創造部新幹線・交通まちづくり局交通まちづくり課
活動内容 各種マップ作り（公共交通、自転車）、イベント等でのPR活動、県民運動推進月間の実施（10・3月）と広報 など



少女漫画風のポスターで“攻めた施策”“本気の利用促進”と大きな話題に！



・福井県内に実在するバスや鉄道などを題材にしたカードゲームを独自開発
 ・出前講座やワークショップなどで活用中



公共交通カードゲーム『のってこふくい』（R4～）



公共交通に関するリーフレット（小・中・大学生向け、R2年度～）

作成したリーフレットは全学校で配布するとともに、HPに掲載



モビリティウィーク & カーフリーデーふくい(H19～)

毎年、JR福井駅西口広場やえちぜん鉄道田原町駅広場など福井市中心市街地で開催



ふくいサイクリングルートマップ (R2)

サイクリングのモデルルートとして、「三方五湖周遊ルート」など14コースを紹介



嶺南地域公共交通乗り換えマップ (R2)

「TABIRIN」にアクセスするQRコードを新たに掲載
 ・新たなサイクリングルートを追加

2021(R3)



エコ通勤の啓発リーフレット (R3)



外国人向け多言語チラシ (R4)

2022(R4)



外国人向け多言語チラシ (R4)

2023(R5)



福井駅発 電車とバスの観光アクセス時刻表 (R5)



ふくいの鉄道・バス「幸福」エピソード募集 (R5～)



ふくいサイクリングルートマップ (R4)



スマホアプリ「駅メモ!」とコラボデジタルスタンプラリーを実施 (R3～)

2-②

公共交通カードゲーム『のってこふくい』

- 福井県の公共交通機関を題材にした公共交通カードゲーム『のってこふくい』を製作
- 実際にカードゲームを体験できる機会として、大学の講義や小学校、児童クラブ等における県の出前講座で体験会を開催

→ 楽しみながら公共交通を学ぶことにより、参加者へのモビリティ・マネジメントの意識付けに成功

2-③

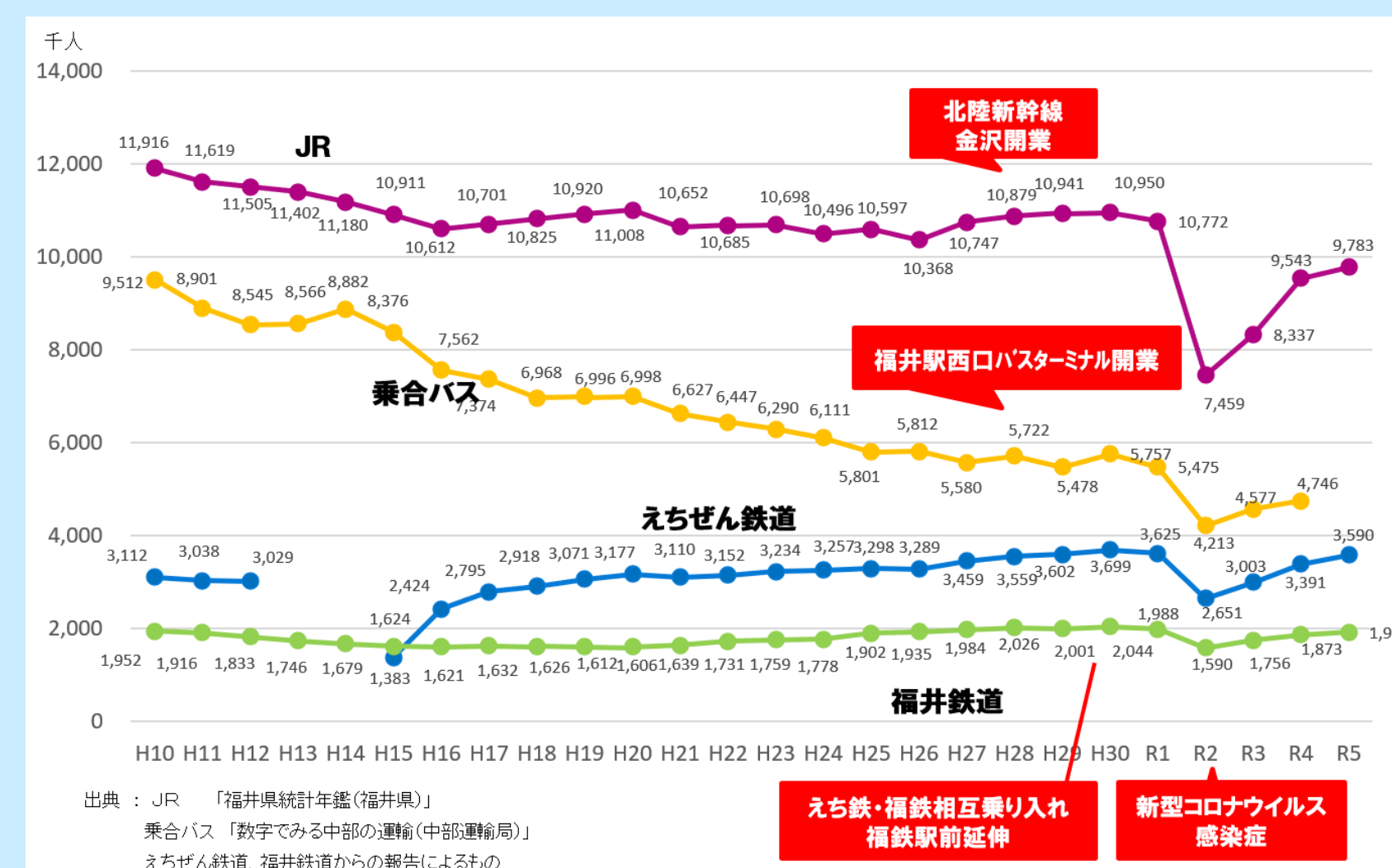
ふくいの鉄道・バス「幸福」エピソード

- 県内の鉄道・バスにまつわる心あたたまるエピソードを募集し、優秀作品の表彰・発表を実施
- 令和5年度は223件の応募作品の中から、大賞・優秀賞として計6作品表彰

→ 表彰作品はHPや新聞等で幅広く発表することで、普段公共交通機関を利用しない方にも公共交通を身近に感じてもらうとともに、運転士のイメージアップにも寄与

3. 公共交通利用者の推移

- 福井鉄道・えちぜん鉄道では、利用促進の取組み効果もあり、コロナ禍前は利用者が増加傾向、令和5年度はコロナ禍前の水準に戻る。
- 令和6年3月から営業を開始したハピラインふくいでは、1日2万人の目標を1割上回る2.2万人の利用があるなど、好調な滑り出し。
- 県内の乗合バスは利用者が漸減傾向、コロナ禍で大きく減少したが、近年は持ち直しつつある。



4. まとめ

- これまでの取組みを通じて公共交通の重要性に関する社会的認知は着実に進んでいる。
- 近年は、普段から公共交通機関を利用しない層に向けてのPRを積極的に実施しており、幅広い層に向けて利用促進を行っている。
- 今後は、公共交通機関の利用促進に加えて、運転士の人材確保など持続可能な公共交通ネットワーク体系の確保に向けた取組みを進めていく。

- ◆ 新幹線開業後の公共交通利用状況は、鉄道・路線バス・タクシーいずれも観光利用で好調に推移
- ◆ タクシー会社の管理の下、一般ドライバーによる送迎サービスを行ういわゆる日本版ライドシェアが令和6年8月下旬から福井県内で開始予定